

日朗の石塔

匠 瑳 探 訪

168

日朗にちろうは下総国に生まれ、日蓮の6人の高弟(六老僧)の一人で、市内野手の朗生寺はゆかりの寺とされています。

鎌倉時代以降、日蓮宗が広まる中で、日朗の門弟は「日朗門流もんりゅう」として活動し、関東や京都などで多くの寺院を開きました。

その日朗に関する石塔(石碑)が市内に2カ所あります。

金原(飯高地区)の三社神社から県道74号線を通

安久山方面にわずかに進んだ左側、石垣で囲まれた石塔群の中に「日朗供養塔」があります。

1859(安政6)年日朗没後540年に建てられたこの供養塔は、金原をはじめ近隣村(現在の多古町、香取市など)広範囲の60を超える村名が石塔の台石部分に刻まれているのが特徴と言えます。

同所にあるほぼ同時期に建てられた他の石塔にも同様に多くの村名が見

られ、「近村信男女講中」とあることから各村の「題目講中」の寄付で建てられました。近くに檀家かを持たない妙泉寺があり、ここで題目講が行われ、飯高檀林の教授陣が来て行う講こう会えでの説法の評判が広まり、遠方からも信者が集まったのでしよう。

石の囲いは1952(昭和27)年に「飯高組一部題目講」が整備したことが門柱に刻まれています。

あと1カ所は内山新田(豊和地区)の山林の中にある、石碑正面に「日朗菩薩」と刻まれた供養碑です。1748(寛延元)年に「内山新田村 講中男女」が建てました。近くに1648(慶安元)年に開かれた慶安寺があり、檀家はなかったものの、妙泉寺と同じく飯高檀林から月に1回ほど僧侶が来て説法をしていた、と記録にあります。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

